

『親の力』をまなびあう学習プログラム
中学・高校生などの青少年に対応した新規教材について
～多様な場での活用法～

広島県立生涯学習センター
社会教育主事 里本佳子

調査研究の概要

本調査研究は、平成 27 年度に開発した中学・高校生などの青少年に対応した新しい教材を多くの学校等で活用してもらうための方策について検討することを目的としている。

平成 20 年度から、広島県では「家庭教育支援」のツールとして『親の力』をまなびあう学習プログラム（以下「親プロ」という。）ワークシート（教材）の開発と普及により講座が全県で展開され、各市町において学びの輪が広がっている。近年では、主に保護者を対象とした教材の開発を行ってきたところである。しかし、平成 26 年度に行った調査から、「親になる前に子育て体験がある人は 3 割であり、この体験がある人ほど子育ての悩みや苦手意識が少ない」という結果が明らかになった。このことを踏まえ、今年度は、学識経験者、有識者からなる懇談会を設置し、開発に当たって意見をいただきながら、中学・高校生などの青少年に対応したワークシートの開発を行った。既に、広島県では中学・高校生などの青少年を対象とした教材を 4 種類（アレンジ版を含む。）開発しており、それらの内容は、「妊娠について考える」、「親への感謝の気持ちをもつことについて考える」などとなっている。しかし、これらの教材の開発後、7 年程度経過し、例えば「子育ては家族だけで行うものではなく、社会あるいは地域全体で行うもの」という考え方も生まれている。こうしたことを踏まえ、社会の状況変化に対応した内容の教材を開発することとした。また、この教材の開発に当たっては、「中学校や高等学校等でも活用できるもの」という視点で考察を行い、その中で得られた知見を現在既にある教材の活用にも生かしていくこととした。

実際にこの教材を活用してもらう際には、まず、どんな場面で活用すると効果的なのかを生徒を指導する側の方に理解してもらう必要がある。この教材のねらいを踏まえて、「いつ、どこで、だれを対象に、どのように」進行していくか、教育課程のどの部分に関連づけられるかなどの綿密な打ち合わせが必要となる。試行段階での生徒たちの学習後の感想は、約 9 割の生徒が肯定的にとらえている。参加型学習により自分の幼い頃を思い出し、将来親になるかもしれないという立場を考え、社会の一員として生きていくことについて考えることは、生徒たちにとって有意義な時間となったようである。今後、この新規開発教材を市町の家庭教育担当課の理解を得て学校や社会教育施設等で活用していただくよう働き掛けを行い、中学・高校生などの青少年の学びの輪が広がることで、市町の家庭教育支援事業が活性化され、その効果が更に県内全域に浸透していくことが期待できると考える。

調査研究の構成

- 1 中学・高校生など将来親になる世代に対応した教材開発の経緯
- 2 中学・高校生など将来親になる世代に対応した教実施の現状と課題
- 3 今後の具体的な活用について
- 4 多様な場面での活用について
- 5 参考文献